

〔 畜産 ・ 飼料作物 〕

Pangola grass (*Digitaria decumbens* SENT.)
の茎の貯蔵性と活着に関する調査

讃井 芳胤

(鹿児島県農業試験場)

SANUI, Y.

Effect of Pit Storage during Winter Months on Sprig
Resuscitation in Pangolagrass, *Digitaria decumbent* SENT.

パンゴラグラスは種子が不稔であるため繁殖するには sprig が用いられている。sprig の生育段階としては進んだものがよい。植付時期は春季からであるが、この時期はまだ低温のため萌芽伸長中で生育が進んだ sprig は得られない。したがって、このような sprig を利用するには貯蔵した sprig を用いるのがよいと思われる。

この目的で、晩秋に刈取り採取したものを翌春まで土中に埋蔵して貯蔵の可否と活着について調査した。

1. 調査方法

貯蔵に用いた茎は、昭和42年7月8日に茎さしをして増殖したパンゴラグラス(フロリダ産)の圃場から同年11月24日刈取り土中に埋蔵し昭和43年3月25日取出した。

埋蔵の要領は、巾40cm、深さ45cm、長さ80cmの溝を掘り、その中に材料を入れ、その上部にイネワラを3cm程度おき、約30cmの土盛を行ない雨水の侵入を防ぐためビニールで被った。

2. 結果

埋蔵より取出した茎は、全量6.670gで長さは平均70cmで本数は983本であった。すでに萌芽、発根を開始しているもの40%で、節数は4~5節、葉身、葉鞘は黒褐色となっていたが、茎は黄緑ないし赤紫色を呈し貯蔵前と大差なく腐敗はなかった。貯蔵茎の形態は第1表のとおりである。

つぎに、貯蔵茎を昭和43年4月1日植付け、45日後の同年、5月15日に活着調査を行なった、第2表のとおりであった。

第1表 貯蔵茎の取出し時の形態

	茎長 (cm)	節数	節間長 (cm)		茎径 (mm)
			長	短	
平均	69.7	5.3	13.7	10.2	3.2
S. D.	±6.8	±2.3	±2.6	±4.1	±0.4

注) 1) 節数は、主茎の節で分枝茎は含まない。
2) 節間長は、基部の節を第1節とし第2節との間、茎径はその中央部の径。

第2表 貯蔵茎の活着調査

芽根の有無	灌水の有無	植付本数(本)	活着本数(本)	枯死本数(本)	活着率(%)
有	有	135	127	8	94
	無	135	108	27	80
無	有	135	114	21	84
	無	135	101	34	75
合計		540	450	90	83

注) 灌水は植付当日のみ45ℓ灌水した。

3. 摘要

1. パンゴラグラスの茎を晩秋に刈取り、翌春まで土中に埋蔵して貯蔵性と萌芽活着について調査を行なった。
2. 昭和42年11月24日刈取った茎を土中に埋蔵し、翌春の43年3月25日に土中より取出したところ腐敗はなく、すでに萌芽発根をはじめているものもあり貯蔵が可能ながわかった。
3. 貯蔵した茎について活着を調査した結果は、芽付灌水94%、芽なし灌水84%、芽付灌水なし80%、芽なし灌水なし75%で、貯蔵茎による増殖可能ながわかった。